

# 立場らびと保育園における 施設自己評価 令和2年度

作成: 令和3年4月  
 保育責任者 小林 奈美

評価項目	総評(意見・改善策)
保育目標について	子どもたち一人ひとりと向き合い、信頼関係を大切に保育を行うよう心がけることができた。その中で一人ひとりへの理解を深め、ねらいや目標を明確に持ち、それを保育者間で共有して保育を行うことに関してはまだ足りない部分が多い。子ども一人ひとりの育ちを大切に保育をしていくこと、今だけではなく先のことまで考えた保育を、ねらいや目標をもとに保育者間で共有して保育を行っていくことが今後の課題である。
保育について	新型コロナウイルスの影響により、活動を制限せざるを得ない状況が続いた。その中でも、子どもたちが安心してのびのびと過ごせるように、保育者間で話し合いながら保育を行った。集団生活の中で三密を避けることは難しかったが、午睡時はなるべく間隔をあける・戸外活動時、公園に他の園がいた場合は散歩に切り替える等、出来る限りの対応を行った。子ども一人ひとりを尊重し、やらせるのではなく自ら進んで行動できるように寄り添い、援助していけるような保育を心がけた。
行事について	新型コロナウイルス感染症の影響で軒並み行事が中止となる異例な年度となってしまいましたが、その中でも、保護者の参加はかないませんでした。園内の行事や野菜や魚の解体ショーなど、安全・衛生面を考え、積極的に子どもたちと職員で行事を楽しむことができた。来年度は安全を第一に考えた上で、積極的に行事を行っていく施設をもって運営していきたいと考えています。
分掌・体制	普段の保育、行事など、それぞれが自分の役割を意識しながら行動することができていた。行事では事前準備を今までよりも早めに始め、余裕をもって取り組んだつもりだったが、進捗状況をしっかり把握できていなかったことがあり、結果的にゆとりがなくなってしまったことがあった。今後は保育責任者として体制をしっかり整えながら、一人ひとりの力を十分に発揮できるような仕組み作りに取り組んでいきたい。
運営	新入社員に対して、「マニュアル」の読み合わせを全て行うのではなく、大事な部分をピックアップして行う運用に変更した。入社以降段階的にマニュアルを伝えていくことにより、理解しやすくなった。また、マニュアルに乗せる内容、乗せないまでもルールとして統一していく内容を分け、その内容についても一つひとつ見直しを行った。週に一度役職会議を行うことにより、運営・保育・管理・給食が一体となり、より良い園の運営となるよう常に心がけることができた。
年齢別・クラス運営	より具体的に保育に直結する内容となるよう、クラス会議を見直した。まだ始めたばかりで試行錯誤しながらというところもあるので、今後はそれが定着していけるように努力していく。クラス運営で困ったことがあった時などに、すぐに相談して解決していく仕組みが不十分であり、担任が抱え込んでしまう現状がある。今後はこの辺りについても、十分なフォロー体制が整うように取り組んでいきたい。
保健・安全指導	新型コロナウイルス感染症の流行を良い機会として、園の衛生・除菌の方法を見直した。全員が室内の除菌・換気を意識できるよう運営を行った。今後も園外の研修の参加、研修内容の発表での情報共有や、園内研修などで保険・安全の意識を継続できるような組織作りに努めます。
園内外研究・研修	新型コロナウイルス感染症の影響で、研修の中止も目立ちましたが、参加可能な研修には積極的に参加。全員がバランスよく研修を受講できるような運営に努めた。また、研修後に研修報告書を作成し、全員が閲覧できるように設置。来年度は研修内容を全体会議などで発表し、皆で情報共有できるような運用を目指していきたい。また、救急救命研修など、講師を招いた研修についても提案・検討中。
情報について	各帳簿・書類ごとにファイリングを行い、個人情報については施錠のできる保管場所にて保管できるよう整理・整頓を行った。また、個人情報の法令遵守については、園エントランスに、職員と保護者に見える場所に掲示を行った。
施設・設備	開園して5年、保育室内外の設備にメンテナンスが必要な部分が目立ちはじめている印象。トイレなど水回りの修繕、給食室内の機器のメンテナンス、保育室内のエアコン内部清掃などを実施した。毎日の点検はもちろん、丁寧に長く使用していけるような運営に努めたい。
施設間交流連携	新型コロナウイルス感染症の影響で、他園との交流は軒並み中止になってしまったため、いづみ幼稚園所有の畑にて、参加させていただいたさつまいも堀り以外、他園との交流は実現できなかった。保育士同士、子どもたちにとっても良い刺激を受ける良い機会であることは間違いないので、感染状況を見極め、安全対策を行いながら、参加できる機会には積極的に参加させていただき姿勢をもっていきたい。
家庭・地域との連帯	新型コロナウイルス感染症の対策で、エントランスでの登降園をせざるを得ない状況でしたが、その限られた時間で、子どものご家庭の様子と園の様子を共有し、話す時間を十分に取るような人事配置に努めた。行事は中止をやむなくされましたが、個人面談を年一回開催。来年度は感染症対策を行いながらも、できる限り行事を開催していく方向で運営していきたい。また、その内容を地域の方々に参加してもらい、当園を知ってもらうきっかけ作り、そして地域貢献できるような施設を目指していきたい。
情報発信	ホームページの内容は見直しを行いながら随時更新。園便り、給食便りを毎月配布し、月ごとに情報を発信。新型コロナウイルス感染症の影響で、園への出入りが制限されてしまったため、ブログや写真の販売画面にて行事の様子を閲覧できるようにした。日々の保育の様子が保護者や、園に関心のある方に伝わるような情報発信に努めた。
衛生管理について	保育室内は、それぞれの項目に従い、毎月・月1回の衛生管理における点検、毎日の衛生管理・清掃チェックに努めていることに加え、室内・エントランス部分の除菌作業を一日2回、さらに室内換気を一日3回行う感染症対策の運用を開始。給食室は、日々点検表に加え、定期点検表を用いて衛生面に気をつけた。器具、機械の点検も記録し、異物混入等を未然に防ぐことに努めた。また、二カ月に1度の害虫駆除を行い、保育園内に害虫が侵入しないような対策を行っている。
調理内容について	新型コロナウイルス感染症の為、各クラス定員が少ない日々であった。登園してきている子ども達への栄養面、衛生面はもちろんの事、子ども一人ひとりの発達状態を確認し、保育者と共有のもと食事提供を行った。コロナ禍にできる範囲内での行事食の提供に努めた。食事の巡回では保育者と共に食具の使用の指導等を行った。和食を中心とし旬の食材を取り入れた献立作成を行い残食の多い献立については会議で話し合い次月の献立作成の計画へとつなげた。
食育について	新型コロナウイルス感染症の為食育が自粛となった。少しずつ園内でできる食育を行い、三密を防止しながらきゅうり、ミニトマトの栽培、収穫を行った。新型コロナウイルスが減少の際、お魚の解体ショーや野菜の断面ショーなども開催することができた。次年度はコロナウイルスが減少し少しでも多くの食育活動ができることと良い。
健康管理について	職員健康チェックカードを導入し、職員の出勤時の体調管理を行った。毎月1回給食便りを発行し、食、健康管理に関する内容や旬の食材の紹介、夏バテや食中毒など、季節ごとの内容を掲載することで保護者にも食からの健康管理を意識してもらえるように支援した。毎月の身長体重を元に栄養計算に取り入れた献立を工夫していった。また、保健日誌に園児の情報を記入し、全職員で園児の健康状態の情報共有をした上で、毎日の保育ができるようにしていった。アレルギーマニュアル、感染症流行時の対応、そして嘔吐物等の処理の研修を通して職員のレベルアップをはかっていきたい。また、掲示板に発生状況を随時に知らせ、発生の拡大予防に努めている。
事務管理について	運営部門、保育部門、管理部門、給食部門の各部門で、それぞれの書類をファイリングし、書類・データを明確に誰が見てもわかりやすい管理方法に変更。定位置管理を徹底し、何かを探すという余計な作業をなくすような管理方法を目指しました。